

芸術科（美術、工芸） 学習指導案

1. 日 時 令和〇年 〇月〇日 〇曜日
2. 場 所 デッサン教室
3. 学年・組 第3学年 課題研究 造形演習C 選択者（62名）
4. 科目・題材名 課題研究 造形演習C「水をモチーフとした映像（写真）表現について考えよう」
（学習指導要領との関連：A表現（3）映像メディア（写真）表現）

5. 題材の概要

映像（写真）表現の幅広さを体験によって実感し、有機的モチーフの「水」をテーマに科学や歴史、国語的側面も視野に入れたテーマを生徒自身が考え、制作する表現力を養う。グループワークを通して、必要なコミュニケーション能力、協調性を育てるとともに、作品発表を通じて達成感を感じさせる。

6. 題材の目標

【知識及び技能】

映像表現の視覚的な要素や効果などを理解し、創造的な技能と鑑賞の活動で得た見方や感じ方を作品に生かして表す。

【思考力、判断力、表現力等】

「水」というモチーフから主題を生成し、表現の意図や工夫について構想を深め、価値意識をもって見方や感じ方を深める。

【学びに向かう力、人間性等】

制作行程や表現方法・作品鑑賞について主体的に考え、見方や感じ方を深めるためのグループ討論や創作活動に粘り強く取り組む。

7. 題材観

生徒は情報機器の発達により、新しい画像や動画配信を自由に閲覧できる環境にある。写真や動画といった映像メディアは、効果的に分かりやすく情報を伝えることができるが、今後はそれらの情報を受け身で捉えるだけでなく、自ら作品を判断する能力と、それらを活用し、創造的な作品づくりに生かす能力を養うことが求められるようになっていくと考える。

特に芸術科においては、映像メディアは表現の幅を広げ、様々な表現の可能性を引き出すとともに、それらを編集したものを発想や構想の場面で使用して、主題を生成することなどにつながることは重要である。

本題材では、映像メディアを自己表現のひとつの手段として捉え、人が生きるうえで大切な「水」という物質を主題として、グループで話し合う対話的な学習活動を通して、表現方法を検討し、作者の主題が伝わりやすいポスターやスライド、動画などの最終展示作品を制作する。題材のまとめとしてプレゼンテーションを実施し、作品に込めた表現意図を言語化し、他者に伝える力を育てる。さらに、完成作品を校外で展示する機会を設けることで、生徒自身が達成感を得られ、自己実現へ向かう意欲を高めていきたい。

8. 生徒観

（略）

9. 指導観

これまでこの科目では、友人を自分に見立てて紹介する「他己紹介」や、グループでのアート思考、プレゼンテーションを通じ、対話を軸として学習を重ねてきた。こうした経験は、新たな発想を生み出すための基盤となっている。

今回の「水」という身近なテーマを通じ、その作品から感じたことや考えたことを話し合い共有することで、より作品への理解・関心を深め、自己の成長体験へとつなげるようにし、創作・表現・伝達の楽しさや喜びを感じさせたい。また、表現活動において、情報を受け取る側の気持ちを考えた映像メディアの基本を学び、発想する能力を育て、生徒自らが主体となり自分の思いやメッセージを主体的に表現できるようにし

ていきたい。

10. 題材の評価規準

(作品・ワークシート・メモなど)

知識・技能 [a]	思考・判断・表現 [b]	主体的に学習に取り組む態度 [c]
<p>(知) 表面張力や分子結合、バーチャルウォーターなど水の特性や性質を理解している。</p> <p>(知) ICT機器による効果をふまえて、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。</p> <p>(技) ICT機器の効果的な表現とマニュアルでの工夫による表現の両方を意識したうえで、創意工夫し、効果的に表している。</p>	<p>(発想や構想) 水についての主題を自ら見つけ、グループでディスカッションした内容を生かし、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>(鑑賞) ICT機器の機能と表現の工夫とを関連させながら、表現のための思考を働かせ、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>(表現) 映像メディア表現の多様な表現に関心をもち、構想を練ったり、表現方法や編集を工夫したりする表現の創造活動に粘り強く取り組んでいる。</p> <p>(鑑賞) 見方や感じ方を深めるためのグループ討論や鑑賞の創造活動に粘り強く取り組んでいる。</p>

11. 題材の指導と評価の計画(全 10 時間)

●形成的評価 ○総括的評価

時間	学習内容	学習活動	評価規準 【観点】(評価方法)
1・2 本時	<ul style="list-style-type: none"> 「水」をモチーフとした題材の学習内容とねらい、その方法についての確認 グループと個人活動の双方についての確認 (今回は個人活動中心) 班にわかれ、次回の作業準備 	<ul style="list-style-type: none"> 「水」を起点に発想や構想を深め、最終的には自身が伝えたい主題を表すためにポスターやスライド、動画などの表現方法から選択し表すという、制作の見通しをもつ。 「水」を起点に発想や構想を深めるため、マインドマップを利用した、「発想ワークシート」に取り組む。 さらに多くの表現の意図と工夫を知り、自身の発想や構想に生かすために、絵画や作品にある「水」の表現を探し、参考となるものをいくつかスケッチする。 参考となる画像をスケッチやメモで記録しておく (配色や表現方法など)。 	<p>○「水」から柔軟に発想を広げ、その主題を表すための方法を様々に検討し、構想を練っている。【b (発想や構想)】(発想ワークシートの内容)</p> <p>●主題である「水」をどう表現しているか、その表現の工夫や効果に着目し、そのよさや美しさ、作者の意図などを感じ取っている。【b (鑑賞)】(アイデアスケッチ)</p> <p>●表面張力や分子結合、バーチャルウォーターなど水の特性や社会における課題を理解している。【a (知識)】(アイデアスケッチ、メモ)</p> <p>●ICT機器を使った効果的な表現とマニュアルによる表現の効果の両方を意識し、表している。【a (技能)】(アイデアスケッチ)</p> <p>●映像メディア表現の多様な表現に関心をもち、構想を練ったり、表現方法や編集を工夫したりする表現活動に主体的に取り組んでいる。【c (表現)】(活動の様子)</p>

<p>3・4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらい 「グループで表現を探 す」 ・グループでまとめを実 施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライトやそのほかの道具なども 使って、力点や水量、明暗を様々 に変化させて表現を試行錯誤し ながら、自身の表現の着眼点を 探し、写真や映像で保存する。 ・Canva 等の画像編集ソフトを 使った表現も考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水についての主題を自ら見つ け、グループでディスカッシ ョンした内容を生かし、創造 的な表現の構想を練ってい る。【b（発想や構想）】 (アイデアスケッチ、写真や映 像など) ●映像メディア表現の多様な表 現に関心をもち、構想を練つ たり、表現方法や編集を工夫 したりする表現の創造活動に 粘り強く取り組んでいる。【c (表現)】 (活動の様子)
<p>5・6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「水」の表面張力や結合、 3態(固・液・気)をど う見せたいかについての グループディスカッ ション ・動画による「見えない 水」バーチャルウォー ターやSDGsについ ての考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回までにテーマを決定するこ とを目標にグループで写真やス ケッチをもとにテーマを絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「水」に関する課題や水の持つ 性質とその表現方法について 考察し、創造的に構想を練っ ている。【b（発想や構想）】 (アイデアスケッチ) ○「水」に関係する様々な問いに 対して考察し、主題に対する 知見を深めている。【a（知 識）】 (提出物) ○「水」の持つ特性や性質を理解 しようとし、「水」に関する問 題意識を高め、主体的に主題 と関わり、構想を練ろうとし ている。【c（表現）】 (アイデアスケッチやその他の 提出物)
<p>7・8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最終発表作品における 表現方法についてのま とめ ・次回のまとめに必要な 役割分担の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成を考え、プレゼンテ ーションシートや作品制作に必 要な資料(映像や写真など)や 表現方法を検討する。 ・発表者等役割分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT機器の効果的な表現と マニュアルでの工夫による表 現の両方を意識したうえで、 創意工夫し、効果的に表して いる。【a（技能）】 (作品、プレゼンテーショ ンシート) ●伝えたい主題を表すために効 果的な表現方法を追求し、創 造的に構想を練っている。【b (発想や構想)】 (プレゼンテーションシート) ●表現方法や構成、編集を工夫 し、効果的に表す表現の創造 活動に粘り強く取り組んでい る。【c（表現）】

			(活動の様子)
9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンシートや作品のまとめ ・制作と鑑賞についてのグループ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚デザインを意識し、プレゼンテーションシートや作品をまとめる。 ・作品を観賞し、ワークシート(プレゼンテーション相互評価票)に記入する。 ・フォームとプリントに記入する。 	<p>○ICT機器による効果をふまえて、全体のイメージや作風でとらえることを理解している。【a (知識)】 (作品、プレゼンテーションシート)</p> <p>○ICT機器の効果的な表現とマニュアルによる表現のよさの両方を意識したうえで創意工夫し、効果的に表している。【a (技能)】 (作品、プレゼンテーションシート)</p> <p>○ICT機器の機能と表現の工夫とを関連させながら、表現のための思考を働かせ、創造的に表している。【b (発想や構想)】 (作品、プレゼンテーションシート)</p> <p>○ICT機器の機能と表現の工夫とを関連させながら、作者の表現の意図と工夫を感じ取り、見方や感じ方を深めている。【b (鑑賞)】 (フォームやプリントの記入内容)</p> <p>○グループ討論や表現の創造活動、鑑賞活動に粘り強く取り組み、見方や感じ方を深めようとしている。【c (表現及び鑑賞)】 (ワークシート、観賞の様子、フォームやプリントの記入内容、発言内容など)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会に向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示方法を検討する。 	

作品展示は○月○日～○日実施する (外部会場にて)

12. 準備物

教材について	教員：ICT機器、バケツ、プラスチックカップ、雑巾、スチレンボード 生徒：Chromebook、筆記用具、タオルハンカチ、小道具 (ボウル、霧吹きなど)
--------	---

13. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・「水」をモチーフとした題材の学習内容とねらいをふまえ、今回の課題のポイントと意図を理解する。自らの伝えたいテーマやその方法について、体験的に学び、主題を追求する。作業の工程を「発想ワークシート」

に残し、最終発表作品の表現のポイントを明確にするとともに、その第一段階を見つける。

(2) 本時の評価規準

【a (知識)】

表面張力や分子結合、バーチャルウォーターなど水の特性や社会での性質を理解している。

【a (技能)】

I C T機器を使った効果的な表現とマニュアルによる表現の効果の両方を意識し、表している。

【b (発想や構想)】

「水」から柔軟に発想し、その主題を表すための方法を様々に検討し、構想を練っている。

【b (鑑賞)】

主題である「水」をどう表現しているか、その表現の工夫や効果に着目し、そのよさや美しさ、作者の意図などを感じ取っている。

【c (表現)】

映像メディア表現の多様な表現に関心をもち、構想を練ったり、表現方法や編集を工夫したりする表現活動に主体的に取り組んでいる。

(3) 本時の準備物

教員：プロジェクター、パソコン、ライト

生徒：Chromebook、筆記用具、タオルかハンカチ

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 15分	<p>【課題の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水」にはどんな形や表情があるのかについて、グループで話し合い、観察したことをメモする。 		○「水」から柔軟に発想を広げ、その主題を表すための方法を様々に検討し、構想を練っている。
展開1 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの真ん中に水の入ったコップをいくつか用意し、机に水をこぼしたり、コップからコップに水を移し変えたりするなどの活動を通して、水のもつ様々な表情を体験的に追求する。また、用意されたライトを用いて、光をあてることにより生じる陰影や輝きなどの水の多彩な変化を観察する。 		●【b (発想や構想)】 (発想ワークシートの内容)
展開2 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroomに配付された「発想ワークシート」に取り組み、「水」を起点に発想や構想を深める。 ・「水」をモチーフとした題材の学習内容とねらい、その方法についての確認する。 ・絵画や作品にある「水」の表現を探し、特に自身の理想とする画像や参考になる画像などをスケッチで記録したり、考えたことや気付いたことをメモしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にパソコンを準備する。 ・マインドマップ等も利用した、水の「発想ワークシート」に取り組み、言語化することでさらにイメージが深まるようにする。 ・絵画や作品の中にある「水」の表現を検索するなどして探し、様々な表現の意図や工夫があることを知り、自身の発想や構想に活かせるようにする。 	●主題である「水」をどう表現しているか、その表現の工夫や効果に着目し、そのよさや美しさ、作者の意図などを感じ取っている。【b (鑑賞)】 (アイデアスケッチ)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループと個人活動の双方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、配色や表現方法などに注目するように促す。 	●表面張力や分子結合、バーチャルウォーターなど水の特性や社会における課題を理解している。【a (知識)】 (アイデアスケッチ、メモ)
			●I C T機器を使った効果的な表現とマニュアルによる表現の効果の両方を意識し、表している。【a (技能)】 (アイデアスケッチ)

10分	<p>て、活動内容の趣旨を確認する。 (今回は個人活動中心、次回はグループ活動が中心である)</p> <p>・班にわかれ、次回の作業準備をする。</p>		<p>●映像メディア表現の多様な表現に関心を持ち、構想を練ったり、表現方法や編集を工夫したりする表現活動に主体的に取り組んでいる。【c (表現)】(活動の様子)</p>
-----	--	--	--

(5) 観点別学習状況の評価の判断基準の設定

判断基準 評価規準	「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒に対する指導のてだて
<p>【b】 (発想や構想)</p>	<p>試作した写真などの資料から、柔軟に発想を広げ、自身の設定した主題を表すために必要な方法を複数回様々に検討し、構想を練っている。</p>	<p>水のもつ様々な変化を試行錯誤しながら探し、それを自己の主題と結び付け、写真を撮ったり、メモしたりしている。</p>	<p>本人が残したメモや画像、写真をもとに技術的なヒント、表現の工夫につながるアイデアについて、具体的に指摘することにより、考えを促すようにする。</p>